

令和六年度 推薦・特別選抜（社会人） 入学試験問題〔国語総合〕

受験 番号		氏名	
----------	--	----	--

一 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

私が教えている東大生の中には、いわゆる中高一貫校の出身者が少なくありません。中学校受験を経て、有名な中高一貫校に入ってから東大に来る。その意味で、長い間自分たちと同じような均質的な集団で育ってきた学生たちが多いのです。このような学生たちは、世間的に言えばたしかに「頭のよい」学生たちなのかもしれませんが、<sup>①</sup>しかし、学生によっては、なかなか「堅い発想」を持っている場合があります。

たとえば、学生たちと教育の問題を議論するときのことです。ある学生が次のような発言をしました。

「エリート校の出身者は、幼いときから過酷な受験競争を勝ち抜いてくる。そして、競争の過程で、他人を蹴落<sup>けお</sup>としてくる。したがって、友だちを作るのがうまくない」

この主張には、受験教育は競争を促すという「常識」と、受験競争は他人を蹴落とすことになるので、友人関係がうまくいかなくなるという「常識」とが含まれています。なるほど、世間に<sup>②</sup>ルフ<sup>③</sup>している受験教育のイメージにしたがえば、このような発想が出てくるのもうなずけます。ほかの学生たちも、この意見に対し、「うん、そうだ」といわんばかりに首をタテに振りながら聞いていました。

しかし、このようなとらえかたは、有名進学校の<sup>④</sup>ステレオタイプ<sup>⑤</sup>をもとにしています。進学校を目指して勉強に<sup>⑥</sup>ハゲ<sup>⑦</sup>む有名進学塾の幼い生徒たち。「必勝」のはちまきをして、テストで一点でも多く取ることを目指す塾の子どもの姿が、テレビや雑誌に登場することがあります。そうした子どもたちのイメージは、幼いころから競争、競争に明け暮れていれば、自然と友だちもできなくなってしまいうだろうという「常識」を作り出します。受験教育が<sup>⑧</sup>ヒバン<sup>⑨</sup>される場合に、決まって出てくる常套句<sup>じょうそうく</sup>——「受験を勝ち抜いてきたものは、頭はいいかも लेकिन、人間的には冷たい」とか、「受験競争は友人関係を打ち壊す」といった「常識」が、こうした学生たちの意見に反映しているのです。

このような意見は、ほぼ毎年のように繰り返されたものでした。ということは、東大生の間では、ある程度共有されている「受験観」といつてよいでしょう。しかし、こうしたステレオタイプにとらわれているかぎり、<sup>⑩</sup>有名進学校の本当の姿は見てきません。

そこで私は、こういった意見をいう学生に、「それじゃあ、君の周りにいる有名進学校出身の学生はどうだい？」と聞いたります。場合によっては、意見をいった学生自身が、そういう進学校の出身者であることもありますから、そういうときには、「じゃあ、君自身はどうですか？」と質問します。すると、たいていは、「僕自身は違う」とか「僕の友人の○○君はそうでもない」といった意見が出てきたりします。つまり、自分自身や自分の身近な人のことは棚上げして、それでもやはり世間に広まっている「常識」にとらわれていたのです。

実際には、こうした進学校の出身者には、人との関係の持ちかたが巧みな学生が少なくありません。小さいときから受験にきゅうきゅうとしていたというより、かなり余裕を持って大学に入ってくる学生が少なくないのです。<sup>⑪</sup>こうした学生の場合、<sup>⑫</sup>大学に入るまでに、<sup>⑬</sup>地方の公立校出身者よりも、<sup>⑭</sup>かえって幅広い経験を持っている場合さえあります。受験競争を通じた経験よりも、生まれ育った家庭や地域の環境の影響が強いかもかもしれません。世間で思われているよりも「余裕」を感じさせる、経済的にも文化的にも豊かな家庭の出身者の人間関係の巧みさが、ステレオタイプにとらわれているかぎり見えなくなってしまうのです。

見えなくなるのは、有名進学校出身の学生たちの姿だけではありません。そもそも、「受験を勝ち抜いてきたものは、人間的には冷たい」といったイメージが、<sup>⑮</sup>どうしてこれほど広まっているのか。そうした「常識」が広まることで、何が隠されているのか。競争の勝者を否定的に見なすことで、私たちの社会は、何を得ているのか、何を失っているのか。

これらの問題は、有名進学校の出身者の実像と虚像の違いから、日本社会が人材を選抜していく際の特徴を検討するうえで、重要な視点を提供してくれます。「エリート」たちのイメージを醜く描き出すことが、「誰でも同じ」という日本社会の横並びの意識を強めているのかもしれませんが。あるいは、競争の勝者たち自身にとっても、「後ろめたさ」を植えつけることで、他の社会であれば表面に表れやすいエリートと大衆とのカットウや摩擦をやわらげているのかもしれませんが。もつと別の見かたをすれば、競争に敗れた人たちに、「勝つた者たちは、人間的にすぐれているわけではない」という「酸っぱいブドウ」の気分を味わわせる。こうして勝者たちを見下す見かたを広めておくことが、エリートに対する大衆の不満をガス抜きすることになり、結果的には、エリート自身の存在を「アンタイ」にしている。そういった皮肉な見かたもできるでしょう。ステレオタイプの見かたからちよつと離れるだけで、こうしたさまざまな問題が見えてきます。ステレオタイプをずらしてみることで、「受験の勝者は人間的に冷たい」といったイメージにとらわれているかぎり見えてこない問題をとりえる視点が得られるのです。

(荻谷剛彦著『知的複眼思考法』による)

問一 傍線部 a e のカタカナを漢字に改めなさい。

問二 傍線部①の「しかし」は、逆接の接続詞だが、ここでは、何と何が逆接で繋がれているのかを答えなさい。

問三 傍線部②の「ステレオタイプ」が意味することを本文の内容に即して、具体的に説明しなさい。

問四 傍線部③の「有名進学校の本当の姿は見えてきません」は、言葉通りに受け取ると本文の内容から少しずれている。「有名進学校の」の部分で本文の内容に合うように書き換えてください。

問五 傍線部④は、「地方の公立校出身者」と比較して述べている部分だが、比んでいる「こうした学生」が指示しているものを答え、この対比の妥当性についてあなたの評価を理由とともに記しなさい。

問六 傍線部⑤「どうしてこれほど広まっているのか」に対する筆者なりの解答例をまとめた一文の書き始めと終わりの各5文字を答えなさい。

問七 傍線部⑥の「酸っぱいブドウ」は、イソップ寓話の一つで「狐とブドウ」と訳されることもある。この作品の寓意を簡潔に説明しなさい。なお、寓意とは、ある意味を直接には表さず、別の物事に託して表すこと。

## 二 下の詩を読んで、下の問に答えなさい。

のはな

谷川俊太郎

はなののはな  
はなのなあに  
なずなのはな  
なもないのばな

問

この詩は「ことばあそびうた」と題して出版された詩集に収められている。瀬川康男によるカラフルな挿絵とともに、見て楽しみ、声に出して楽しむことを狙って出版された。ここでは、挿絵はないが、詩自体のおもしろさを、具体的に説明しなさい。合わせて、意味のまとまりがわかるように、文節単位で、読点（ ）を付してください。